

1. 行政説明

①和歌山県教育庁生涯学習局生涯学習課地域教育班 班長 桐井 一晃

生涯学習課からは、以下の点について説明を行いました。

- ・ こどもの育つ環境への危機意識と居場所づくりの必要性
- ・ 学校・地域が協働する多様な活動の展開
- ・ 学校・家庭・地域がゆるやかにつながり、継続的にこどもの育ちを支える仕組みづくり（「きのくにコミュニティスクール等の活用）



②和歌山県共生社会推進部子ども家庭局子ども未来課保育班 副主査 竹中 奈月

子ども未来課からは、以下の点について説明を行いました。

- ・ 和歌山県における放課後児童クラブの主な事業内容（支援員の研修、運営費補助、職員資質向上の取り組み、意見聴取と巡回支援の新事業）
- ・ 放課後児童クラブ運営指針改正のポイントと、放課後子ども教室との連携の考え方
- ・ 学校や地域との関係性の中で、こどもの生活・発達の連続性を重視した取り組み
- ・ 新たに開設した保育ポータルサイト「わかやま保育のひろば」の活用について



2. 講演

こどもの心に寄り添う安心できる居場所づくり ～放課後児童クラブ・子ども教室に求められるまなざし～

講師：福 武利 寝屋川市元リーダー支援員
放課後児童支援員認定資格研修講師
東大阪市放課後児童クラブ巡回アドバイザー
和歌山県放課後児童クラブ巡回アドバイザー

放課後児童クラブの実施状況（令和6年）

- ・ 子ども家庭庁「令和6年度放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）の実施状況」によると、登録児童数1,519,952人（前年比 約6.5万人増）→4人に1人のこどもが児童クラブと関わりがある。毎年6万人増化している。今後さらに増えていくだろう。
- ・ 夏休み明けに放課後児童クラブを離れるこどもが多くなる。離れていくこどもにとっては、「安心・安全な居場所」と感じられていないこともあるのでは？



放課後は「課」業から解き「放」たれる時間



- ・ こどもたちは学校と違う顔を見せる時間であり、安心して過ごせる居場所が必要
- ・ 「居場所」の意味・・・「ありのままの自分でいられる」「安心できる」「ほっとすることができる」場所。
- ・ 「居場所」の3分類
 - ①「居」ないといけない場所…所属の義務がある場所
 - ②「居」られる場所…心理的な安心感がある場所
 - ③「居」たい場所…自分の意思でいたいと感じる場所

紀南会場

R7. 7. 4（金）
参加者 37名
上富田文化会館

紀北会場

R7. 7. 6（日）
参加者 32名
和歌山市
北コミュニティセンター



こどもの乱暴な言動と背景理解

- 暴言の背景には家庭環境や心理的負荷が関係
- 離婚、虐待、過度な習い事によるストレスなど
- 増山均氏の視点：
 - ・ 愛着関係形成の難しさ
 - ・ 警戒的緊張状態…“良い子”を演じ続ける負担
- その子やその親のせい→根本的な解決にはならない。



「問題が起きるからやめとこか」ではなく、どうすればできるか考えましょう。

「やらと言われたことをやってほめられても自己肯定感は上がらない。大事なものは、与えるだけではなく、こどもたちといっしょに考えていくこと。」



ある指導員のタイキさんに対する対応の事例

- 「なんでそんなこと言うの」→「どうしたん何かあったん」
- タイキさんの気持ちを代わりに言語化
- とってつけたようなほめ方をしない→タイキには当たり前
- 相互理解を怠ったと感じたときはタイキに謝ることも
→「出会い直し」
- 気持ちが切り替えられる活動と一緒にみつける
- 伝えるときには感情的になりすぎない

「怒る」と「叱る」の違いとアンガーマネジメント

• 怒る：感情的、威圧的、自分の思いをぶつける、過去に視点を向ける→相手との距離が離れていく

• 叱る：理性的、冷静、相手に伝えるように、未来を見据える→どうするか一緒に考える関係

- テンカウント→心の中で10秒数える
- 場面転換→場所を移して気持ちを切り替え
- 合言葉を決める→「まあ、しゃあないか」など
- こどもたちの笑顔の写真を見る→肯定的な感情を思い出す
- “すべき”という価値観の見直し

安全対策と緊急時対応



- 安全対策（事故予防）
 - ・ 遊具・施設の点検、衛生管理
 - ・ 消火器・AED・非常ベルの確認
 - ・ こどもたちとルールづくり
- 緊急対応（損失最小化）
 - ・ 火災・地震・水害・不審者対応などのマニュアル
 - ・ 定期訓練と職員間の情報共有が大切



グループワーク



あなたならどう考える？



各グループで福先生の講演で気になったことを出し合った後、エミさんの事例（宿題の落書き）をもとに、グループで意見交換をしました。「一方的な決めつけで指導してはいけない」「エミの理由を聞くこと」「エミの本当の心に寄り添うことが大事」など、活発に意見が出されました。

福先生からは、「こどもを変えようと思ったら、こちらが変わらないとこどもは変わらない」など、たくさんアドバイスをいただきました。

講演について

- 放課後事業を利用する人も年々増えていて、4人に1人は関わっているということを知れて驚きました。毎年6万人以上は増えているとのことで、現場の貴重な意見を聞きながら今後取り組んでいきたいと思いました。
- 講義でタイキさんの話で言い換えの話聞いて、なるほどとなり、実践したいと思った。
- 他機関と繋がる事でこどもの最善に繋がれるように頑張ろうと思いました。
- いいお話たくさんきけて、次の日放課後こども教室に行ったら今回のことをいかせたらと思います。
- 実際にこどもたちと接する機会が多い福先生のお話を聞くことで、現場の先生方がどういう思いで普段の業務を行っているのか分かった。
- こどもたちと接していく中で大切なことを、再確認できる時間であると思いました。
- 日々気をつけているつもりでも流されたり余裕がなくなったりしてしまう中で今日のような研修会に参加させてもらうことで、ハッと気づかせてもらえることが多くとても有り難いと思いました。
- 講師先生自身の経験を踏まえてのお話だったため、リアリティがあり入ってきやすかった。明るい雰囲気醸し出してくれた。
- 大人の世界でも起こりそうな問題に対応する秘訣を知ることができた。
- 学童でこどもと関わることは少ないが、怒りの管理など、使用できるスキルなど学べて良かった。
- ふだん意識が薄れていた安全について考える機会になった
- 福先生のお話が具体的で大変わかりやすく、こどもたちと一緒に、これからどうしていったらいいか考えていける関係を築いていきたいと思いました。
- 怒ると叱るの違いがとても分かりやすかったので、明日の保育から取り入れていこうと思いました。
- こどもたちに関わる仕事をしていれば 基本の部分は変わらないことを再認識させてもらえました。ご縁に感謝です。
- 安心、安全の居場所作りは研修でもよく耳にするようになりました。こどもたちの安心の居場所になってるか？と考えた時自信がありません。今日先生のお話を聞いて、居ていい場所、居たい場所と思ってもらえるような学童にしたいと思いました。まず私のやれる事(こどもの思いを聞く、一緒に考える)から始め、こどもとの信頼関係を築きたいと思いました。
- タイキさんとあっちゃん先生の話がとても参考になりました。明日から自分もそんな風に対応したいと思いました。
- 現場ですぐに実践出来るヒントが沢山あった。

グループワークについて

- 明日から実践できる内容でした。
- 現場の意見を聞くことが中々なかったのが、より知るきっかけとなりました。
- 現場の方の意見や行政職の方の意見など様々な角度の意見が聞けた。
- 行政職員として事務を行うだけでは気付かなかった現場の声を受け止めることができた。また、3年生の子が一番手が掛かる、という意見には同じグループの指導員の先生方が共感していたので、そういった共通点があることにも気づくことが出来ました。
- 様々な立場の方から現状をお聞きし、大変な中でお仕事されていることを知ることができてよかったです。今後も大切にしていきたいと思ったのは、やはり現場の声を聞いたり、現場を見に行ったりした上で、行政としてできることを考えていくことだと感じました。
- いろんな立場で皆さんががんばられている。仕事の様子もよく分かり、参考になりました。少し話し合う時間が短かったかな。
- 熱心な方々が多くて 良い刺激になりました。
- いつも保育で悩んだり困ったりしている自分に、明日からまた頑張っってやっっていこうと思えた研修でした。

多くのケースには答えがない。想像力を働かせること。それがこども理解につながっていきます。

担当課どうしみんながつながるとそれがこどもに返っていく。そんなつながりをつくっていきましょう。

